

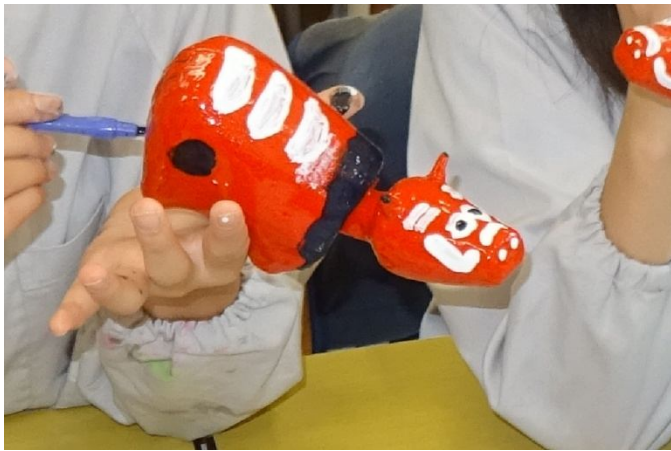
「赤べこの絵付け(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「あかべこの絵付け」に使う「アクリル絵の具」は、水性絵の具で水で溶くことができる。しかし今回は、水で薄めずにそのまま塗らせた。透明水彩絵の具とちがって、下地の色が透けないので、暗い色の上に明るい色を重ねられる。しかし、乾くのにやや時間がかかるという欠点がある。



完成が近づくと、あかべこの全面に絵の具が塗られているので、持つ場所がなくなってくる。少し手を汚してしまう子どももいたが、それもまた楽しみの一つと言えるだろう。



教室後方の棚の上には、「展示スペース」を作っておいた。ファミリー(班)ごとに、色ちがいの画用紙を敷いて、あかべこを並べた。ほとんど同じ形のあかべこなのだが、28体も並ぶと壮観だ。他のクラスも同じように展示され、「あかべこ博覧会」を開催した。



同じような「みほん」や「参考写真」を見ながら造ったのに、それぞれのあかべこに個性がある。笑った顔、怒った顔、目が点の顔・・・並べたあかべこの首が同じ方向に向いていると、何か生きてるように見えて、とても楽しい。



あかべこは実はいろいろなポーズで安定する。この4ファミリーは、首を支点に、お尻を上げたポーズで展示していて、笑いをさそっていた。



実はお尻で立って、前肢を上げて安定することがわかった。そのポーズで輪にして並べると、まるで4頭でダンスをしているように見える。造るのも展示するのも鑑賞するのも、実に豊かで楽しいひと時だった。